

19 糖尿病患者への療養指導の現状と課題

-SMBGの指導について-

○石田良恵 田口愛深 田中章俊 関口勝彦
菱木敏男 佐瀬正次郎 高橋英則

(国保旭中央病院)

【目的】当院では、臨床検査技師がSMBG指導を行っている。今回、SMBG指導の現状とSMBGアンケート調査などから今後の課題について検討したので報告する。【SMBG指導の現状】1)SMBG指導件数：平成15年度に糖尿病代謝内科開設後、著しく指導件数が増加し平成16年度は305件となった。検査業務と指導は兼任のため人員の調整に苦慮している。2)高齢者への対応：理解力や視力低下、手の震えのある患者は指導に時間を要する。必要に応じ家族同伴での指導や入院中は看護師にフォローを依頼している。3)指導上の注意点：機器の特性を理解し正確に測定を行うため以下の注意点を説明している。

①血液量：血液量不足による測定値誤差②採血部位による測定値の違い：指頭と前腕部の違いと低血糖症状時の指頭採血の重要性③組織液混入：無理な血液採取や前腕測定による組織液混入の影響④機種間差と影響物質：機種による血糖値換算法の違いと使用電極による輸液や酸素分圧の影響

【SMBG・穿刺器具のアンケート】当院貸与機器に対する患者の満足度を調査する為、貸与機器と新機種とを比較したアンケートを実施した。その結果、血液量が多い機種や操作が煩雑な機種の評価は低く、操作が簡単で、少ない血液量で測定可能な機器や指頭以外での測定が可能な機器への評価が高かった。穿刺器具では、操作が簡単な現状の穿刺器具への満足度が高く、また、操作が煩雑だが痛みの少ない器具への要望も多かった。【課題】1)指導件数増加に対する体制の見直しが必要 2)高齢者など

QOLの低下した患者へのフォローアップ体制の強化 3)SMBGの機種間差の標準化 4)アンケート結果を考慮したSMBG・穿刺器具の見直し【考察・まとめ】患者が正確に血糖自己測定を行うための指導には、個々の患者の視点に立った指導と機種選択、更には検査室の体制作りが必要と思われる。

連絡先 0479-63-8111

20 糖尿病患者への療養指導の現状と課題

-SMBG保守管理について-

○田口愛深 田中章俊 関口勝彦 石田良恵 菱木敏男 佐瀬正次郎 高橋英則

(総合病院国保旭中央病院)

【目的】SMBG貸与後の保守管理が重要である。保守管理の現状と課題を報告する。

【点検依頼の現状】1.点検件数の推移：H12年度49件から年々増加しH16年度は126件となった。なお、点検は、定期点検ではなく随時点検を実施している。2.患者の年齢層：60歳以上が65%以上占め、70歳代33%、80歳代2%と高齢者の点検依頼が多い。3.点検の内訳：H16年度の1年間の点検依頼の内訳は定期点検11%、作動不良・測定値異常55%(実際の故障6%、操作ミス17%)測定値の相談22%、電池交換6%となっている。

【保守管理の現状】1.点検項目：1)患者からの点検依頼内容(点検希望、動作不良、測定値異常、電池切れなど)を確認し点検作業を行う。2)各機器専用の点検治具、点検チップ、チェックストリップによるチェック3)精度管理試料によるチェック4)動作異常やエラー発生の有無5)電池の有無 2.対処法：1)動作不良・測定値異常が無い場合は、結果を説明し「点検日、電池交換、次回交換予定」の点検済みシールを貼る。これにより、定期点検を促し、次回の点検や電話などに迅速で確実な対応ができるようする。2)動作異常やエラー発生は、SMBGを交換する。故障機器は、メーカーに故障原因の調査を依頼し、その調査報告書は検査科スタッフ間で情報を共有し、その後の保守点検に役立てる。3)手技上の問題が考えられる場合再指導を行う。3.保守管理記録：患者ごとの保守点検の結果を「保守点検表」で記録し、その後の保守管理に役立てる。

【課題】1)定期点検および高齢者への測定手技の再確認体制の構築 2)SMBG貸与件数の大幅増加(H14年度に比べH16年度は269件とほぼ倍になった)は、今後点検の増加も予想される。その為、SMBG専用相談窓口の設置が必要。

【考察・まとめ】糖尿病患者は、SMBGや測定値、測定手技に不安を持っていることが多く、点検体制の更なる充実が必要と思われる。

連絡先 0479-63-8111